

題字の写真は、水野さんが楊枝アートで作った沖縄の首里城です。ご存知のように火事で燃えてしまったので、かつての写真を見ながら制作したそうです。赤い色はお連れ合いの方が彩色しました。興味のある方は是非お出かけください。

紅葉台



新聞

第91号

2023年
8月19日

発行人：関谷 孝

アナベルの里 上川町

6月24日、梅雨の晴れ間に前から気になっていたアナベルを見に上村さんと出かけました。場所は、上川霊園の一つ手前「田守神社前」バス停近く。高尾からはほぼ真っ直ぐの道です。

初めに、地元野菜を販売している農家の人に場所を聞きに寄りました。そこで知り合った水野さんは、「時間があるなら見ていって」というので、ついていくと「ようじアート」と書いた展示場がありました。全部楊枝とボンドだけで出来た見事な作品が所狭しとたくさん展示してありました。シンデレラ城、東京タワー、首里城、草花まで。どれも自分で考え、コツコツと何年もかかって作り上げたとのこと。本当にびっくりです。これまでも新聞やマスコミで紹介されたとのこと。『54年間、暇つぶしで始めた』と語っていました。写真で紹介します。



そのあと、畑仕事をしている人にアナベルを育てている高野さんのことを聞きました。以前タウンニュースで紹介されていたので名前だけは知っていました。すると不思議なことに、目の前にご本人が登場。すでに私たちのことが伝わっていたようです。

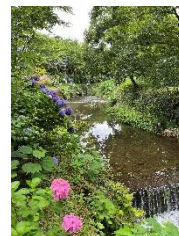


高野さんは、退職後に実家のあるここ上川町に移り住みました。もともと植物に関心があり、（お連れ合いの方も花が好き）山百合を育てて、近くの畑や土手に植えました。ところが猿、イノシシ、最近はシカが百合の球根を食べてしまい、増やすことが出来ませんでした。しかも、ユリは種から5年もかけて育てたそうです。今は家の周りに植えていますが、それでもイノシシがやってくるそうです。そこで、目を付けたのが、アナベルという最近あちらこちらで見かける白いアジサイです。アナベルは、緑・白・緑と色が変化し、長く咲くので人気が出ました。それになんといっても挿し木で簡単に増やせるので花いっぱいになることが出来ます。近くのサマーランドも「アナベルの雪の山」が有名ですね。それは、普通のアジサイは花が咲いた後の7・8月に翌年の新芽を付けるのに対して、アナベルは全部刈り取っても春に新芽が付いてそこに花が咲くので育てやすく、増える要因になっています。但し欠点は、10年ぐらいたつと虫食いや病気で枯れてしまうそうです。特に花の近くの茎にゾウムシが卵を産み、花を切り落としてしまいます。高野さんがアナベルを好きな理由は、「白が好きだから」と言っていました。アナベルの挿し木のやり方は、一本の花から何本も接ぎ木が出来ます。初めに赤玉のポットに入れ、1月ほどで

根っこが出てきたら、培養土の鉢に移し替えます。それは、雑菌でやられないようにするためだそうです。そうやって2年ほどで花が咲き、移植すると株がどんどん増えていきます。今では、サカタのタネが、ピンクのアナベルを開発中だそうです。

その他にも、高野さんは、一人で上川の里を四季折々の花を咲かせようと工夫をしています。春は、さくら、菜の花、ミツバツツジ、山躑躅、花桃。夏にかけてアジサイ、ブッドレア（蝶が好きな花で蝶を呼ぶために育てています。）メキシコひまわり。秋にはコスモス、ヒガンバナの大群。ご自宅で写真を見せてもらいました。

また、自宅裏の川口川沿いには「裏田守（ウラタモリ）散策道」を作ったそれは、それは素晴らしい眺めでした。言葉では言い表せませんので、せめて写真でお見せします。清流の流れる川沿いに色とりどりのアジサイ、ミツバツツジ、さくら、ヒガンバナ等が植えられています。ここは、人に知られていませんので超穴場です。カワガラス、ダイサギ、アオサギ、カワセミも飛んでくるそうです。



高野さんのご自宅の庭はオルレアンの花畑でした。たくさんの苗を育てていました。秋にはコスモス畑になるとのこと。ちょうどキアゲハがやって来て卵を産んでいました。そんな生き物を愛する

高野さんの話の端々からお人柄を知ることが出来、花を育てる人は皆さん心優しい素敵な方なのだと改めて実感しました。そういう人との出会いが何より心に残りました。お土産にアナベルの花をいただき、「また、秋にも来ます」とお別れしました。

追伸：近く大仙寺の神社にはモリアオガエルの産卵する池があります。畠山重忠お手植えの桜の古木もありました。上川の里は自然豊かです。ちなみに八王子広報（6月15日）で紹介された上川の里のNPO法人 街づくり上川の代表は高野さんの弟さんです。（文責 関谷）

粕谷和夫の観察日記 キセキレイ



キセキレイのオス親が、近くの巣中の雛に餌を運んでいました。東京の檜原村都民の森駐車場です。鳥の像の頭がちょうどキセキレイの止まり場になっていました。

♥ グッドタイミングですね。鳥の上に鳥が止まるのも面白い構図です。キセキレイのオスは、胸元が黒く、雌は、白いので見分けます。餌をくわえて子育ての真っ最中。会長さんの写真は、ヒントが隠されているので毎回楽しみです。

紅葉台新聞は、「高尾フモト同盟」のHPに公開されています。高尾の情報や働く人たちが紹介されています。興味を持った方は、覗いてみてください。また、皆様からの情報や投稿もお待ちしています。